

決算補足説明資料

FY22 通期

2023年2月14日

ノーリツ鋼機株式会社
証券コード：7744（東証プライム市場）

NORITSU

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている当社の現在の計画、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。

■ 事業EBITDAについて

事業EBITDAは、営業利益から、その他の収益・費用を加減し、減価償却費及び償却費（使用権資産の減価償却費を除く）を加えて算出しております。
連結財務諸表上に定義されていない指標であるものの、非経常的な損益や償却費に左右されない企業の本来の収益力を示すことから、連結財務諸表の利用者がノーリツ鋼機の業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

当期利益：親会社の所有者に帰属する四半期/当期利益

FY21：2021年12月期

FY22：2022年12月期

FY23：2023年12月期

■ セグメント変更について

- 事業ポートフォリオの再編により、コア事業を「ものづくり」と再定義
- 報告セグメントもFY22から下記のとおり変更



FY22 通期連結業績

- 各事業、11月11日付修正予想に対してプラスで進展
- 売上収益は、各事業の成長により増収。為替影響を除いても増収維持
- 営業利益は、売上収益の伸長に準じ、11月11日付修正予想を超えて進捗したものの、JLabにおけるのれんの減損損失を計上したため、減益で着地
- 当期利益は、株式売却益に加え、外貨建て債権の為替の評価益等により大幅増益
- 配当は、減損損失の影響は除き、普通配当、特別配当ともに期初予想から変更なし

FY23 通期連結業績予想

- 新型コロナ、原材料や燃料価格の高騰、サプライチェーン課題等の影響を織り込むが、各事業いずれも増収増益を計画
- 連結合計で、売上収益及び事業EBITDAとも前期比約9%増を予想
- 普通配当は、事業拡大に準じ増配予想
- 事業環境への対応と収益性の改善に取り組みながら、成長領域への投資を継続

JLabにおけるのれんの減損損失59億円を通期決算に計上

背景

- JLabのFY22は、11月11日付修正予想に対し、売上収益、事業EBITDAともに約1.5億円の上振れで着地
- 米国では市場全体が対前期-6%^{*1}と落ち込んだものの、JLabは対前期+6%^{*1}とシェアを拡大。米国以外でも対前期+46%と成長
- 2023年以降も引き続き成長を見込む
- しかし、昨今の米国市場の政策金利上昇等の影響を受け割引率（WACC）が上昇した結果、株式の公正価値が株式の保有価額を下回ったため、その下回った額を減損損失として認識
- なお、仮にFY21のWACCで試算すると、公正価値は保有価額を上回っている

財務面の影響

PL

- その他の費用に59億円を計上
- 営業利益以下に反映

BS

- のれんが59億円減少
- 減損処理後のJLabののれん残高は97億円に

CF

- ノンキャッシュのため影響なし

配当

- FY22の期末配当は期初予想から変更なし

*1 出典：NPD Group, Inc. 米国におけるトゥルーワイヤレスイヤホンのカテゴリ。販売金額の対前期成長率

Contents

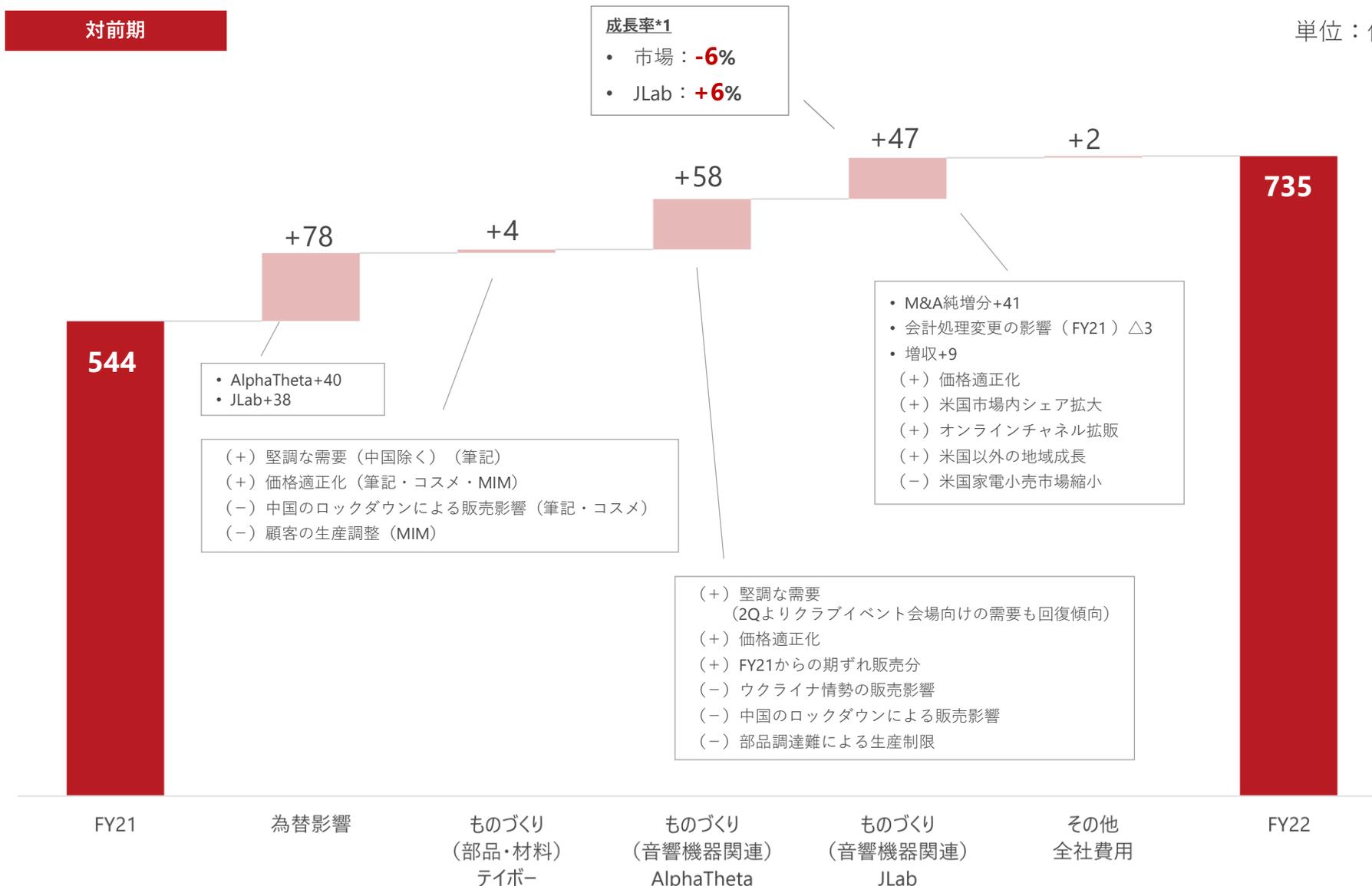
1. **FY22 通期連結業績**
2. **FY23 通期連結業績予想**
3. **中期経営計画FY25進捗**

- 売上収益は、各事業の成長により増収。為替影響を除いても増収維持
- 営業利益は、売上収益の伸長に準じ、11月11日付修正予想を超えて進捗したものの、JLabにおけるのれんの減損損失を計上したため、減益で着地
- 当期利益は、株式売却益に加え、外貨建て債権の為替の評価益等により、大幅増益

単位：百万円	FY21	FY22	増減額	増減率
売上収益	54,481	73,515	+19,034	+ 34.9%
事業EBITDA	10,739	11,367	+628	+5.8%
事業EBITDAマージン	19.7%	15.5%	△4.2%	-
営業利益	6,068	1,262	△4,806	-79.2%
当期利益	5,115	101,548	+96,433	+ 1,885.1%
為替レート (平均)	米ドル (円) 109.8	131.4	+21.6	-
	ユーロ (円) 129.9	138.0	+8.1	-
為替レート (期末)	米ドル (円) 115.0	132.7	+17.7	-
	ユーロ (円) 130.5	141.5	+11.0	-

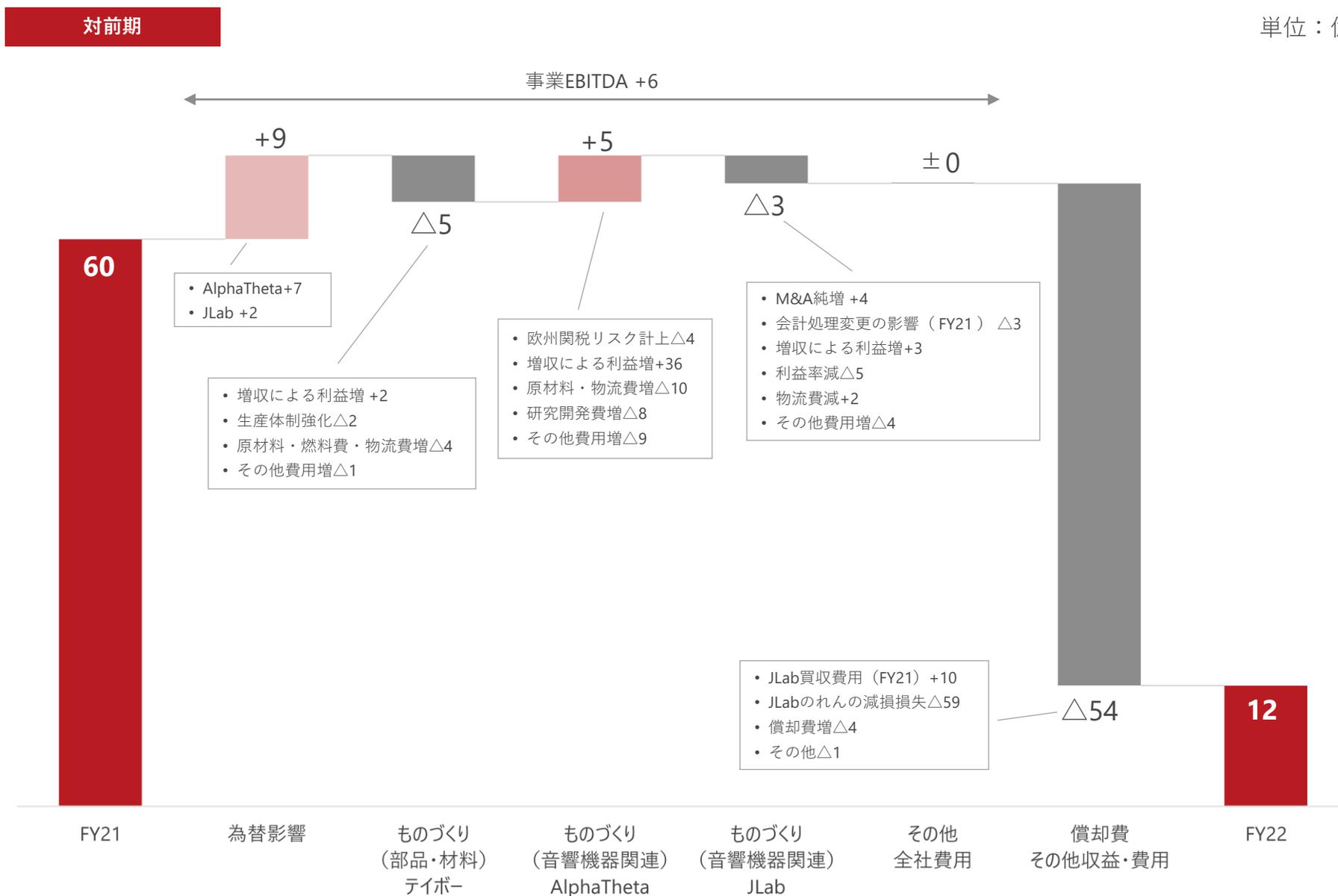
*JMDC株式の一部株式譲渡に伴い、FY22において医療情報に関する事業を非継続事業に分類しております。同様にFY21においても組み替えております。

単位：億円



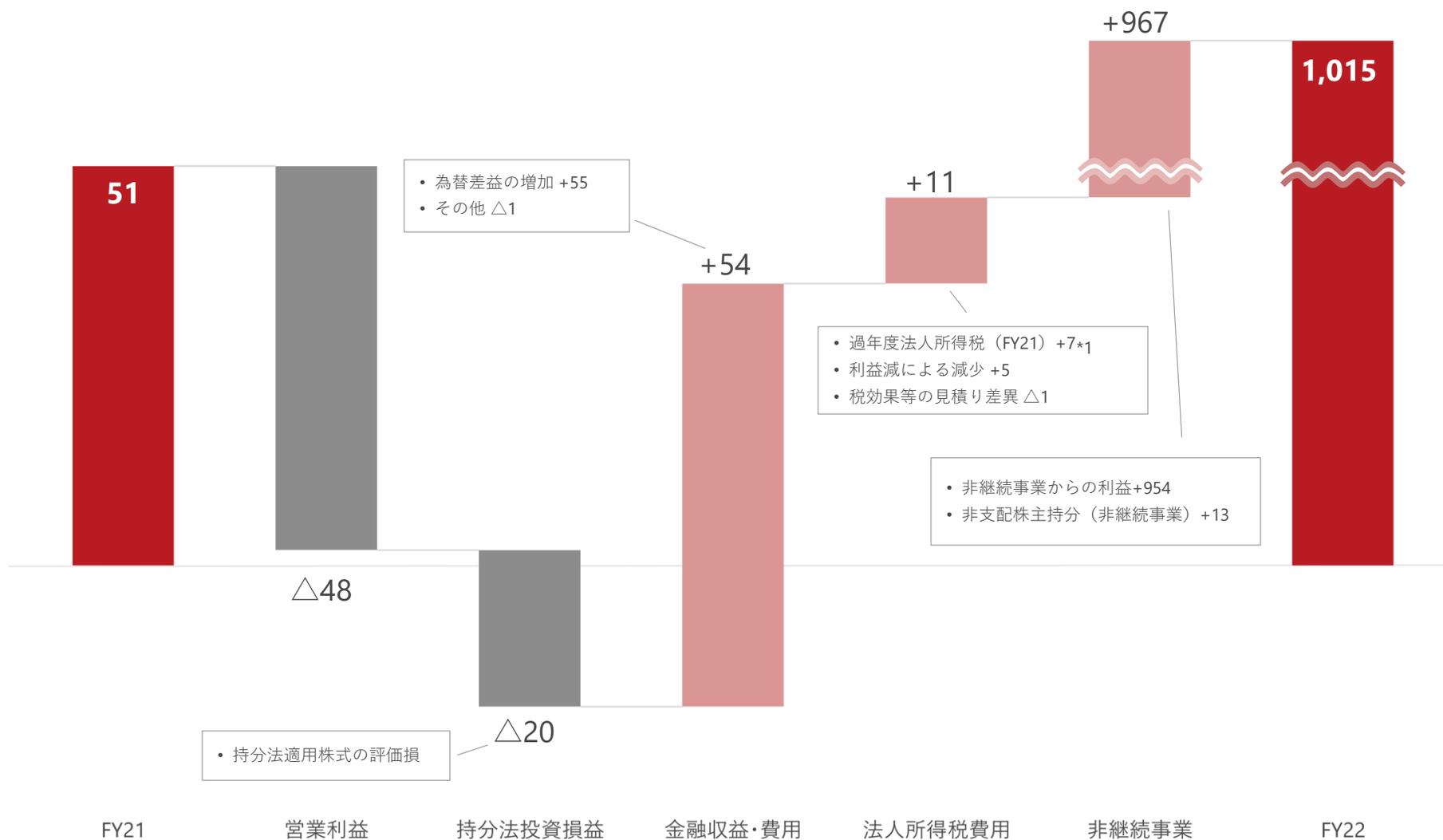
*1 出典：NPD Group, Inc. 米国におけるトゥルーワイヤレスイヤホンのカテゴリ。販売金額の対前期成長率

単位：億円



対前期

単位：億円



*1 2021年11月12日付「過年度法人所得税費用計上のお知らせ」参照

バランスシート の 状況

- FY22 1QからJMDCを連結除外
- 株式売却により現金性資産は大きく増加

バランスシート

単位：百万円	FY21	調整額	調整後 ^{*1} FY21	FY22	増減額
現金及び現金同等物	38,141	△14,459	23,682	96,436	① +72,754
売上債権及びその他の債権	21,865	△8,687	13,178	14,834	+1,656
棚卸資産	14,638	△280	14,358	16,107	+1,749
のれん	72,179	△19,367	52,812	48,589	② △4,223
無形資産	83,065	△5,091	77,974	78,302	+328
その他資産	34,249	△12,509	21,740	52,989	③ +31,249
資産合計	264,141	△60,393	203,748	307,257	+103,509
仕入債務及びその他の債務	13,282	△5,945	7,337	6,296	△1,041
借入金	95,619	△11,898	83,721	48,054	④ △35,667
その他負債	28,503	△12,396	16,107	60,038	⑤ +43,931
負債合計	137,404	△30,239	107,165	114,388	+7,223
資本合計	126,736	△30,154	96,582	192,869	+96,287
財務健全性					
有利子負債	95,619	△11,898	83,721	48,054	△35,667
現金性資産	40,391	△14,459	25,932	132,200	⑥ +106,268
Net Debt	55,227	+2,561	57,788	△84,146	△141,934

*1 2021年12月末のJMDCの公表数値を控除した参考値

主な増減要因

- ① 現金及び現金同等物+727億円
 - ・ 事業EBITDA+113億円
 - ・ 子会社株式の売却+1,118億円
 - ・ 借入金の返済△390億円
 - ・ 配当金の支払△73億円
- ② のれん△42億円
 - ・ JLabにおける減損△59億円
- ③ その他資産+312億円
 - ・ 投資有価証券（JMDC株式）+334億円
- ④ 借入金△356億円
 - ・ 返済（期限前弁済含む）△390億円
- ⑤ その他負債+439億円
 - ・ 未払法人税の増加+348億円
 - ・ 繰延税金負債の増加+73億円
- ⑥ 現金性資産+1,062億円
 - ・ 投資有価証券（JMDC株式）334億円含む

セグメント別業績は下記のとおり

単位：百万円		FY21	FY22	増減額	増減率
ものづくり (部品・材料)	売上収益	12,282	12,717	+434	+3.5%
	事業EBITDA	4,185	3,718	△466	-11.1%
ものづくり (音響機器関連)	売上収益	41,107	59,516	+18,408	+44.8%
	事業EBITDA	7,076	8,234	+1,158	+16.4%
AlphaTheta	売上収益	26,511	36,362	+9,851	+37.2%
	事業EBITDA	5,671	6,897	+1,225	+21.6%
JLab	売上収益	14,596	23,154	+8,558	+58.6%
	事業EBITDA	1,404	1,337	△67	-4.8%
その他・全社費用	売上収益	1,090	1,282	+191	+17.6%
	事業EBITDA	△522	△586	△64	-
連結合計	売上収益	54,481	73,515	+19,034	+34.9%
	事業EBITDA	10,739	11,367	+628	+5.8%

Contents

1. **FY22 通期連結業績**
2. **FY23 通期連結業績予想**
3. **中期経営計画FY25進捗**

		上半期	下半期
テイ ボー	需要 (筆記)	<ul style="list-style-type: none"> 欧州及び国内市場が軟調も、アジア及び中南米の需要が回復 	
	需要 (コスメ)	<ul style="list-style-type: none"> 中国市場の軟調が続く 	
	需要 (MIM)	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の生産調整により、引き続き伸びが鈍化 	<ul style="list-style-type: none"> 徐々に顧客の生産調整が落ち着き、再び成長基調へ
	供給	<ul style="list-style-type: none"> 生産性向上及び省エネ等エネルギー削減により、収益性改善に取り組む 	
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> 物流費の増加は見込まない 原材料・燃料費は引き続き増加 	
Alpha Theta	需要	<ul style="list-style-type: none"> 堅調な需要が続くも、1Qは生産の課題により、販売の伸びが鈍化。2Qから回復基調へ 	<ul style="list-style-type: none"> 堅調に推移し受注残高の解消が進む
	供給	<ul style="list-style-type: none"> 1Qは生産の課題が続くも、2Qから回復基調へ 	<ul style="list-style-type: none"> 正常化に向かう
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> 市中在庫確保等により、原材料価格の上昇が続く 	<ul style="list-style-type: none"> 正常化に向かう
JLab	需要	<ul style="list-style-type: none"> 米国は市場の落ち込みが続くも、新商品展開によりシェア拡大を図る 米国以外は堅調に推移 	<ul style="list-style-type: none"> 米国は上半期と同じ 米国以外では、新たな地域・国への展開が進む
	供給	<ul style="list-style-type: none"> 部材調達難や物流の混乱等は見込まない 	
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> 物流費の増加は見込まない 価格適正化やコスト低減策の効果が表れ収益性が改善 	

FY23 通期連結業績予想サマリ

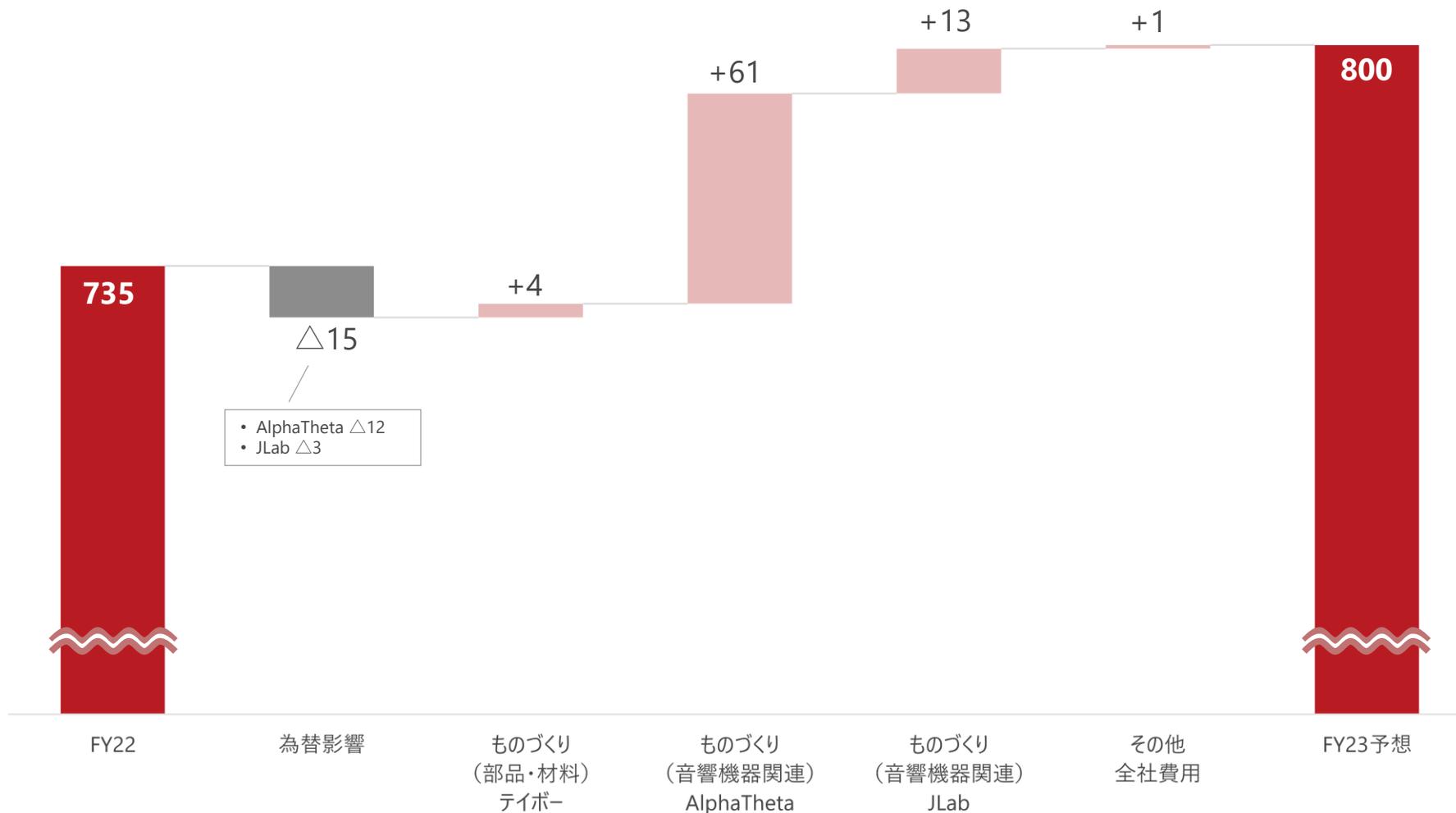
- 売上収益は、各事業の成長により増収の予想
- 営業利益は、売上収益の伸長により、FY22の減損損失を除いても、増益の予想
- 当期利益は、FY22の非継続事業の損益等の一過性の影響を除くと、増益の予想

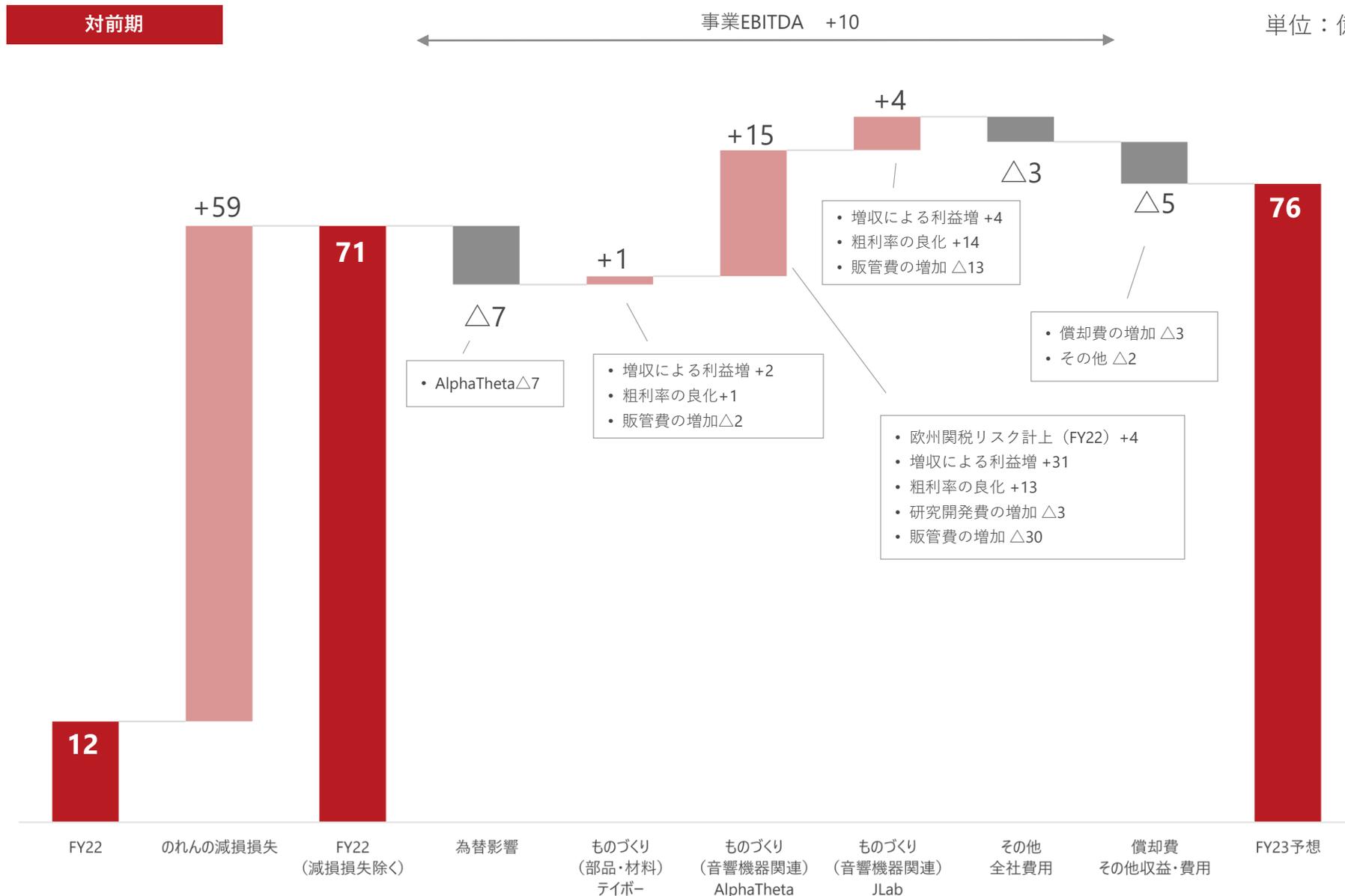
単位：百万円		FY22	FY23予想	増減額	増減率
売上収益		73,515	80,000	+6,485	+ 8.8%
事業EBITDA		11,367	12,400	+1,032	+9.1%
事業EBITDAマージン		15.5%	15.5%	+0.0%	-
営業利益		1,262	7,600	+6,337	+502.0%
当期利益		101,548	4,300	△97,249	-95.8%
為替レート (平均)	米ドル (円)	131.4	130.0	△1.4	-
	ユーロ (円)	138.0	132.0	△6.0	-
為替レート (期末)	米ドル (円)	132.7	130.0	△2.7	-
	ユーロ (円)	141.5	132.0	△9.5	-

*JMDC株式の一部株式譲渡に伴い、FY22において医療情報に関する事業を非継続事業に分類しております。

対前期

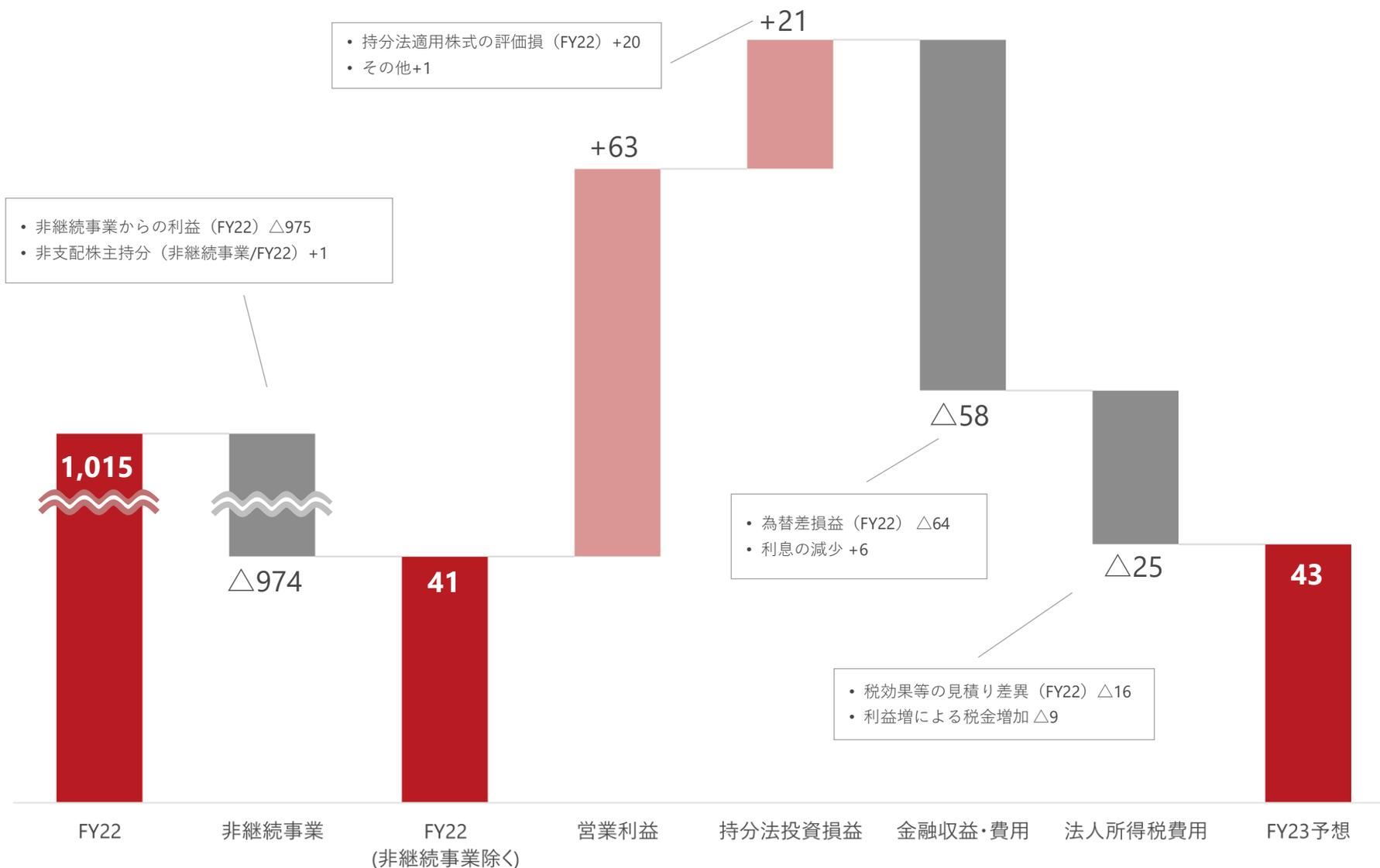
単位：億円





対前期

単位：億円



セグメント別業績予想は下記のとおり

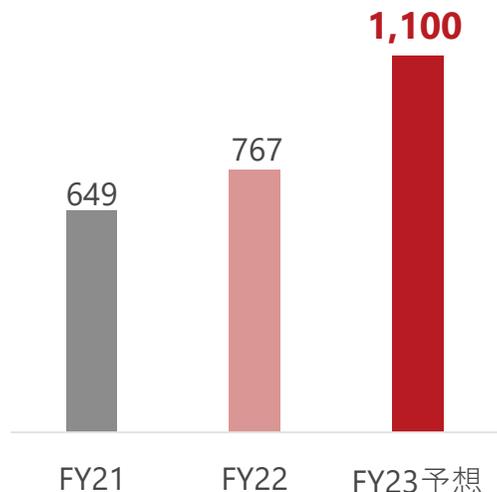
単位：百万円		FY22	FY23予想	増減額	増減率
ものづくり (部品・材料)	売上収益	12,717	13,100	+383	+3.0%
	事業EBITDA	3,718	3,800	+81	+2.2%
ものづくり (音響機器関連)	売上収益	59,516	65,500	+5,984	+10.1%
	事業EBITDA	8,234	9,500	+1,265	+15.4%
AlphaTheta	売上収益	36,362	41,300	+4,938	+13.6%
	事業EBITDA	6,897	7,700	+803	+11.6%
JLab	売上収益	23,154	24,200	+1,046	+4.5%
	事業EBITDA	1,337	1,800	+462	+34.6%
その他・全社費用	売上収益	1,282	1,400	+118	+9.2%
	事業EBITDA	△586	△900	△314	-
連結合計	売上収益	73,515	80,000	+6,485	+8.8%
	事業EBITDA	11,368	12,400	+1,032	+9.1%

各社事業の成長のために、投資を継続

テイボー

ペン先 生産能力の拡充
ペン先 一部素材加工の内製化

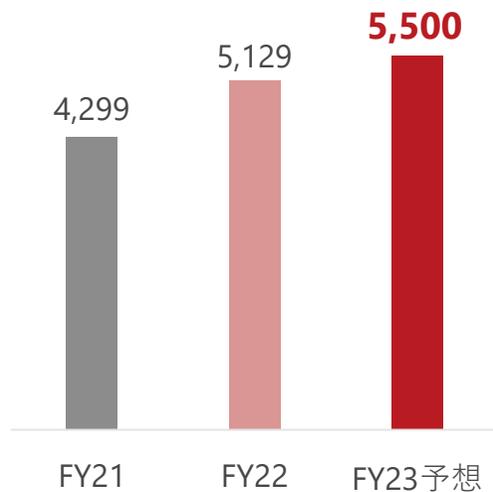
設備投資額推移 単位：百万円



AlphaTheta

新規8モデル開発
(対前期+2モデル)

研究開発費推移 単位：百万円

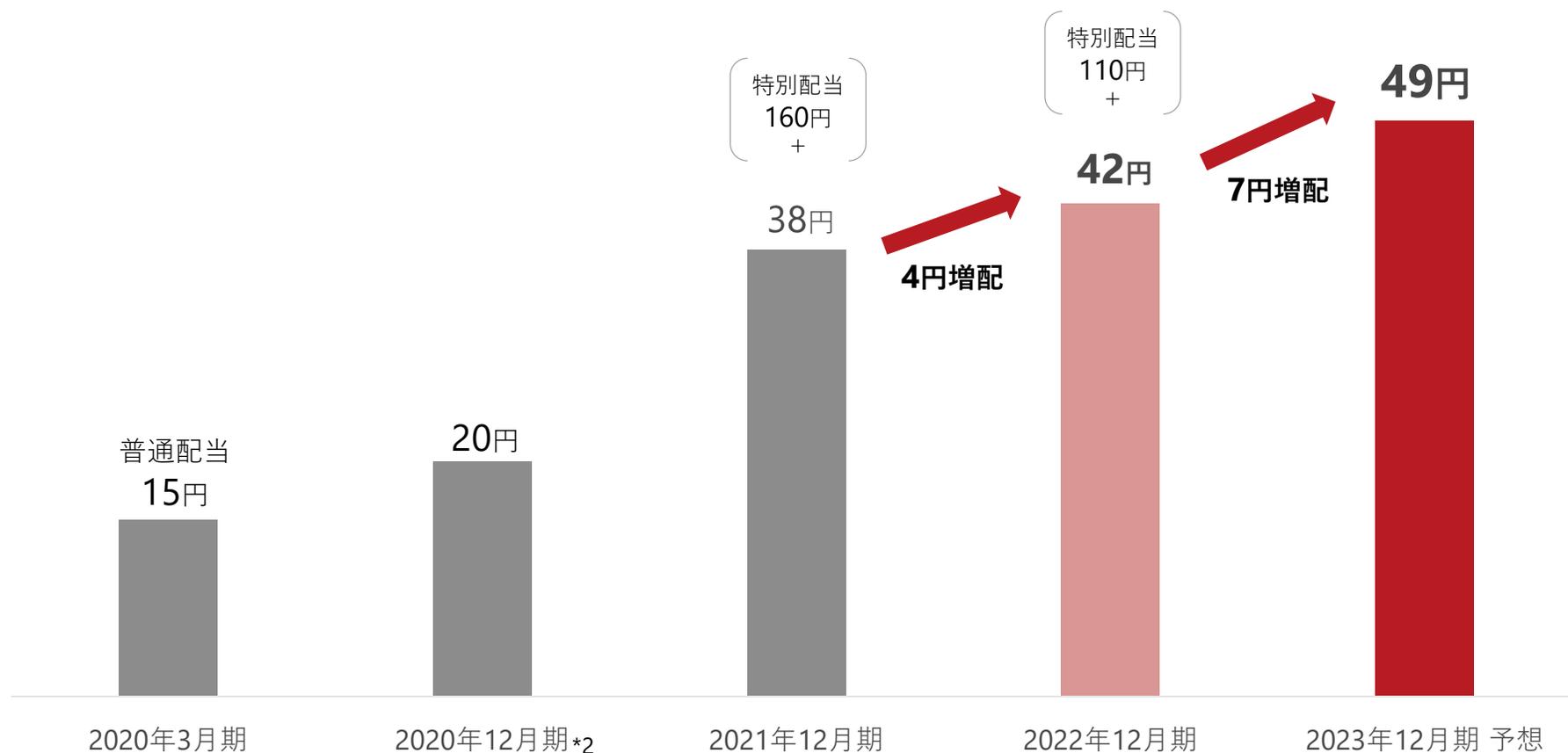


JLab

米国以外の展開のための
PL投資 3億円

- ✓ 欧州及びアジアにおける在庫管理及び物流機能の強化
- ✓ アジア販売体制の強化

- 2022年12月期の配当は期初予想通り普通配当42円と特別配当110円の合計152円*1
- 2023年12月期の配当予想は、配当性向40%として49円



*1 2023年3月23日開催の定時株主総会で決議予定

*2 2020年12月期は決算期変更のため、9ヶ月の変則決算

Contents

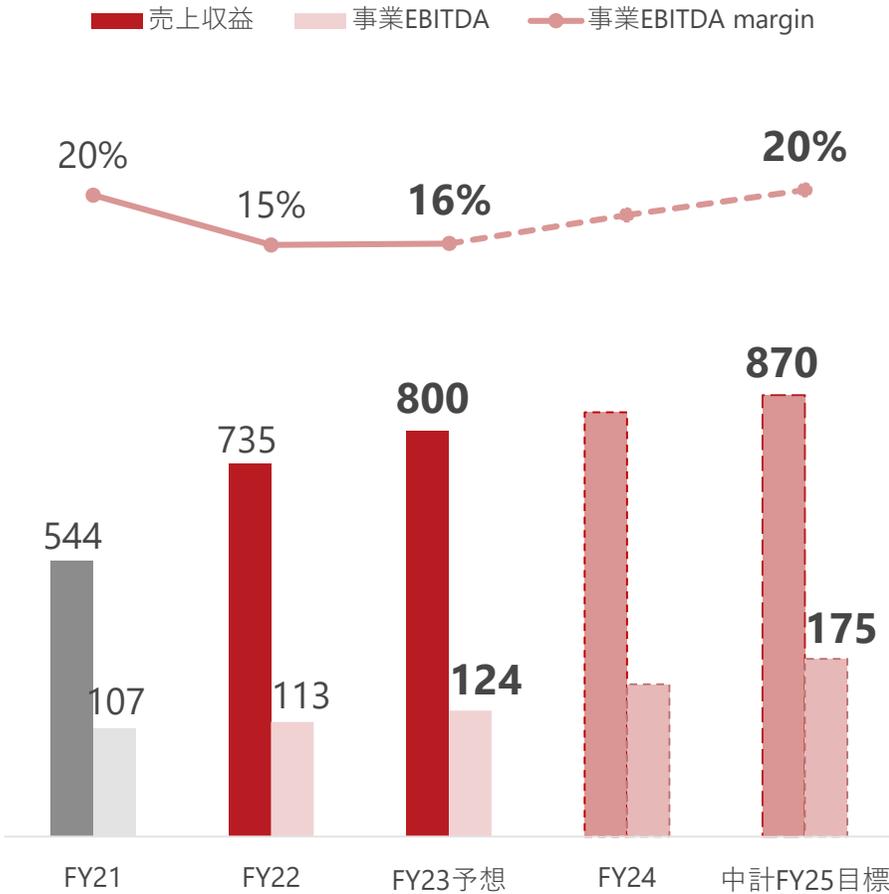
1. FY22 通期連結業績
2. FY23 通期連結業績予想
3. 中期経営計画FY25進捗

■ 売上収益・事業EBITDA・営業利益推移

主要3社グループ事業への投資を通じて、収益性を向上させながら成長を実現

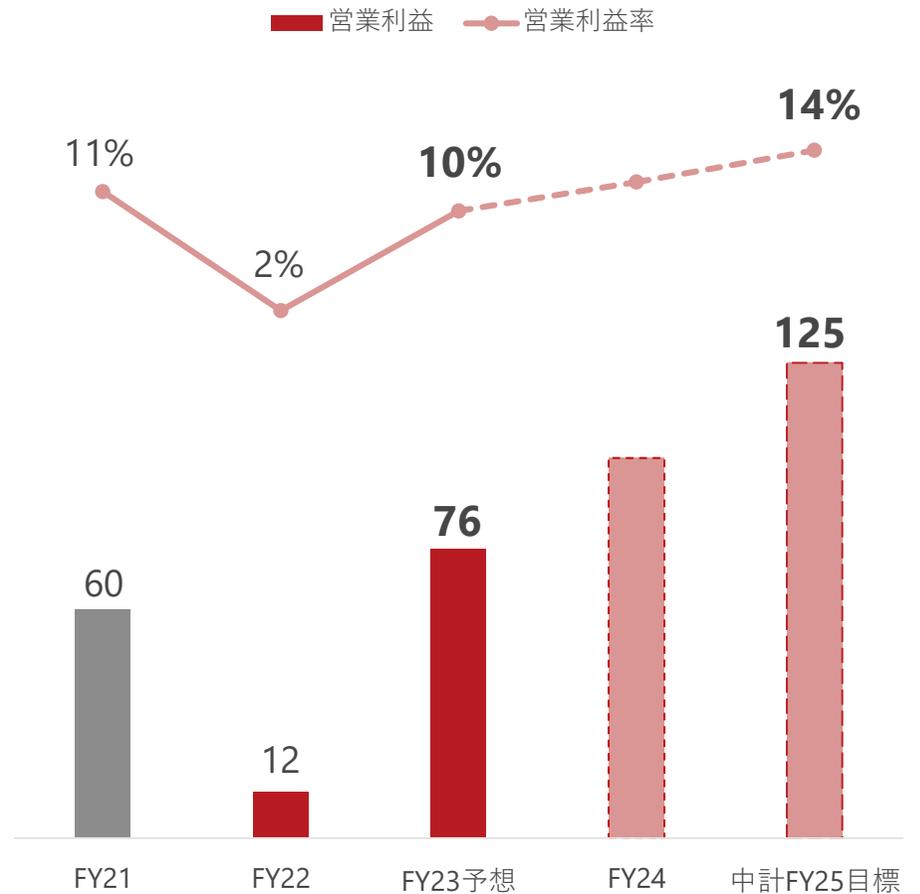
売上収益・事業EBITDA推移

単位：億円



営業利益推移

単位：億円



中期経営計画 FY25における3つの重要施策

重要施策1

- グループ事業の既存分野の強化及び成長分野への投資育成により、成長性と革新性の高い事業グループへ

重要施策2

- ROE8%に向けた財務戦略の推進

重要施策3

- サステナビリティやガバナンス経営の推進

重要施策1に基づく各社の事業方針

部品・材料



テイボー

既にグローバルNo.1/Only1のペン先事業の基盤を活かし、

- ✓ 次の成長の柱となるMIM事業を投資育成
- ✓ ペン先事業において、新技術や新素材の開発に取り組み、市場創造に挑戦

音響機器関連



AlphaTheta

既にグローバルNo.1/Only1のハードウェア事業の基盤を活かし、

- ✓ 新規事業としてアプリケーション/サービス領域を育成
- ✓ 市場拡大に向けたプラットフォームの構築に挑戦



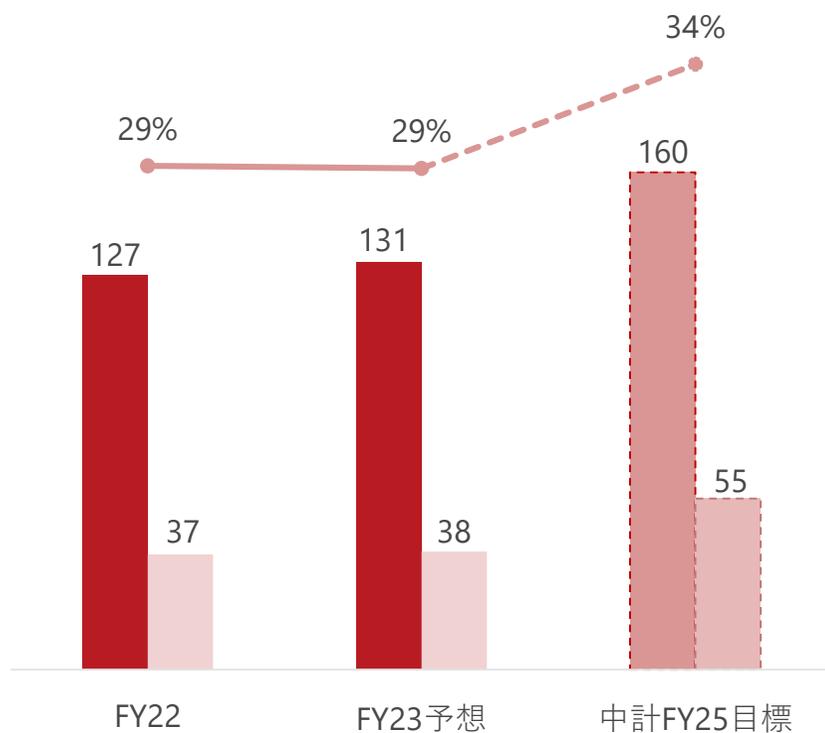
JLab

グローバルNo.1/Only1への成長過程、米国市場における100ドル以下カテゴリーでNo.1のオーディオ事業の基盤を活かし、

- ✓ 米国以外の市場開拓を推進
- ✓ 引き続き成長余地が高い米国においても、製品領域を拡充しシェアを向上

数値進捗

■ 売上収益 ■ 事業EBITDA ● 事業EBITDAマージン
 単位：億円



事業方針

既にグローバルNo.1/Only1のペン先事業の基盤を活かし、

- 次の成長の柱となるMIM事業を投資育成
- ペン先事業において、新技術や新素材の開発に取り組み、市場創造に挑戦

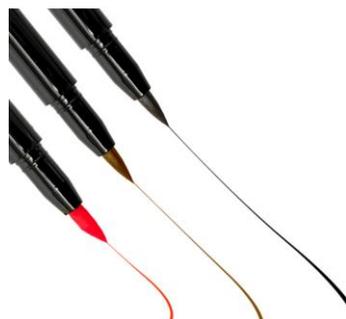
独自の技術開発力と培ったノウハウにより、顧客ニーズに応じた数千もの様々な部材を提供することを実現、基盤事業であるペン先事業と、成長領域のMIM事業を両輪で拡大していく

基盤：ペン先事業

市場規模：数百億円
成長率：5%前後



筆記



コスメ

- ・生産性の向上
- ・新技術や新素材の開発

成長/新規：MIM事業

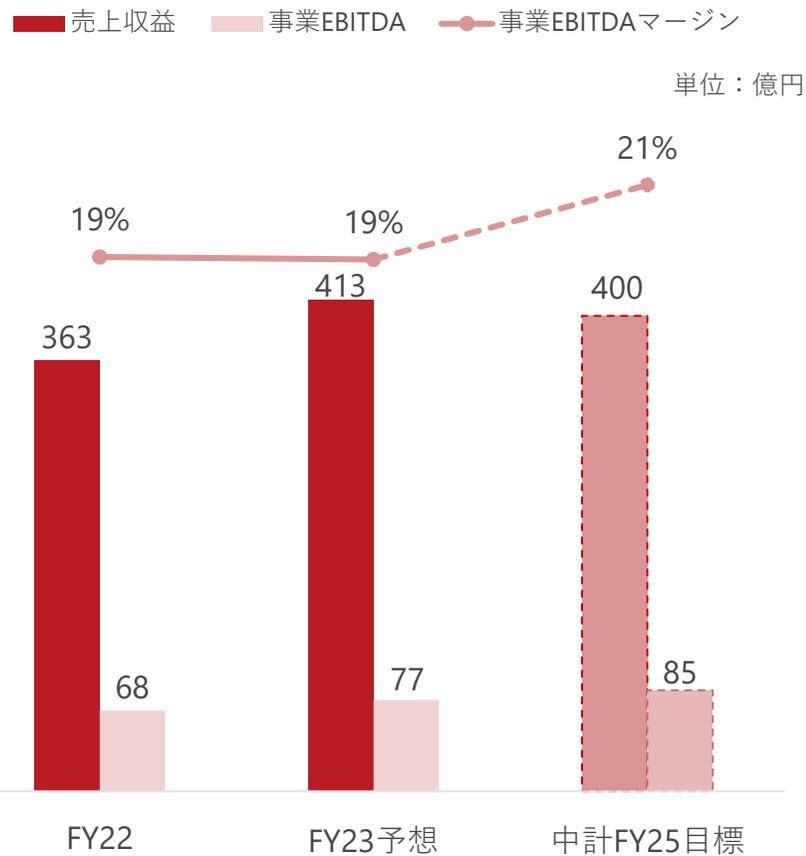
市場規模：数千億円
成長率：10%以上



MIM

- ・5月に新工場の移転完了、100%稼働開始
- ・DX投資により、製造ラインの効率化等に着手

数値進捗



事業方針

既にグローバルNo.1/Only1のハードウェア事業の基盤を活かし、

- 新規事業としてアプリケーション/サービス領域を育成
- 市場拡大に向けたプラットフォームの構築に挑戦

“One Through Music ～音楽で人をつなぐ～”をミッションとして、顧客を中心とした体験価値を提供するプラットフォームの構築をし、市場を創造していく

基盤：ハードウェア領域

DJ機器

楽曲制作機器

ヘッドホン

スピーカー



製品展開を
拡大

Pro Audio 等



成長/新規：アプリケーション/サービス領域

rekordbox

KUVO

Digital サービス

・ AlphaTheta Care 等

自社開発のみならず、他社との協業等も積極的に取り組み、顧客の利便性や体験価値を追求、ハードウェア以外のタッチポイントを増やしていく

djmonitor

楽曲認識技術によるクラブやイベントの楽曲情報のデータ化を推進

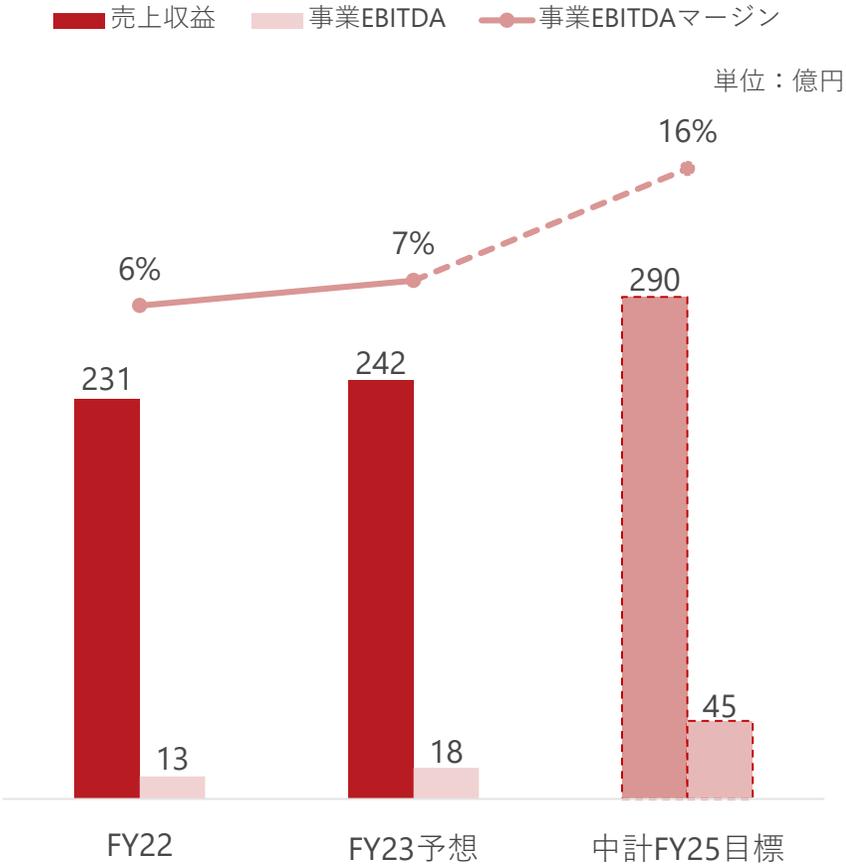
TRIBE
OVERVIEW DECK JULY 2022



メタバース上での世界最大DJスクール運営を目指す企業と協業

ハードウェア
×
ソフトウェア
等による
顧客を中心とした
体験価値を提供する
プラットフォーム

数値進捗



事業方針

グローバルNo.1/Only1への成長過程、米国市場における100ドル以下カテゴリーでNo.1のオーディオ事業の基盤を活かし、

- 米国以外の市場開拓を推進
- 成長余地が高い米国においても、製品領域を拡充しシェアを拡大

手頃な価格帯で、様々な顧客ニーズに応える幅広いラインナップの製品を開発。今後、Audio、Work、Gaming/Creators、Healthの4つの分野で製品展開し、シェア向上をしていく

JLabが展開していく製品領域

Audio



現在のイヤホン・ヘッドホン・子供向け製品から、ポータブルスピーカーやホームオーディオ領域まで展開していく

Work



現在のキーボード・マウスやWebカメラなどから、より効率的なWork環境を整えるファシリティを展開

Gaming Creators



現在のゲーム用ヘッドホンやマイクを中心に、より、ゲームや制作活動に適した製品を展開

Health



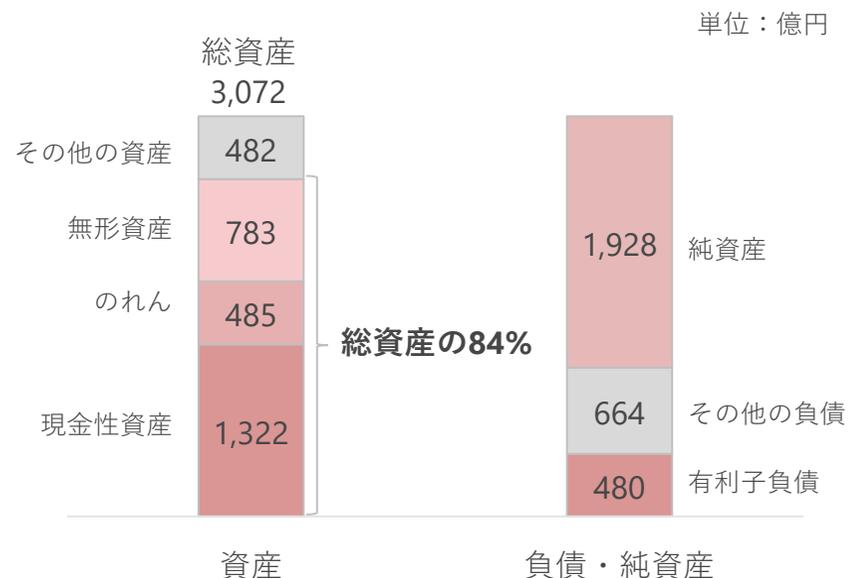
米国での補聴器製品の新しい規制（処方箋なしで購入可能に）を受け、聴覚サポート領域に参入。「Hearing Health」分野で製品を展開予定

ROE 8%の達成には、総資産回転率が低いため、資本効率の引き上げが課題

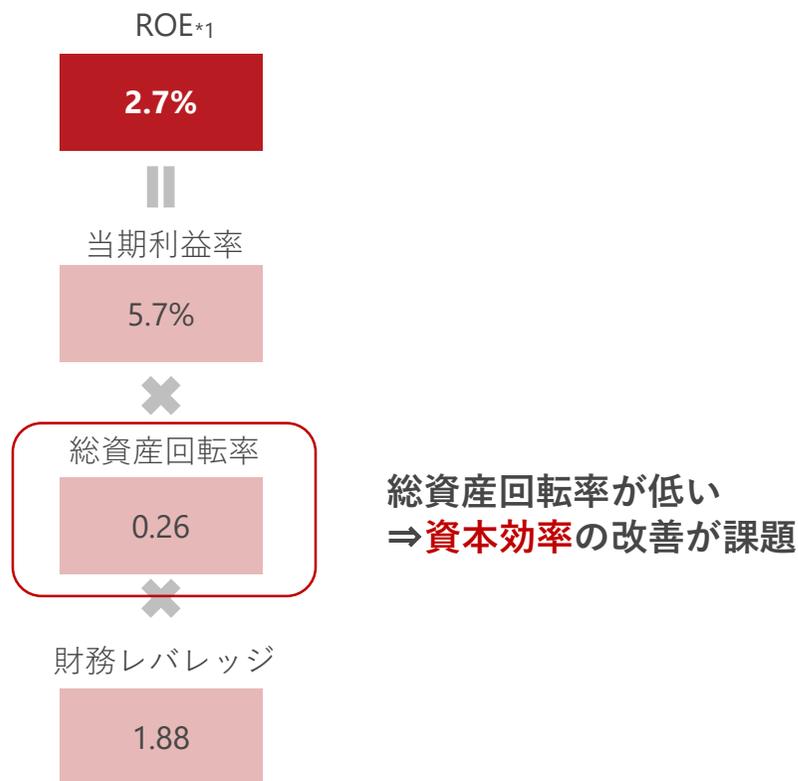
バランスシートの特徴 (2022年12月)

現金性資産、のれん、無形資産が**総資産の84%**を占める

- ポートフォリオ再編の結果、潤沢な現金性資産を保有
- 主要3事業の買収時に超過収益力を認識した結果、のれん及び無形資産を計上

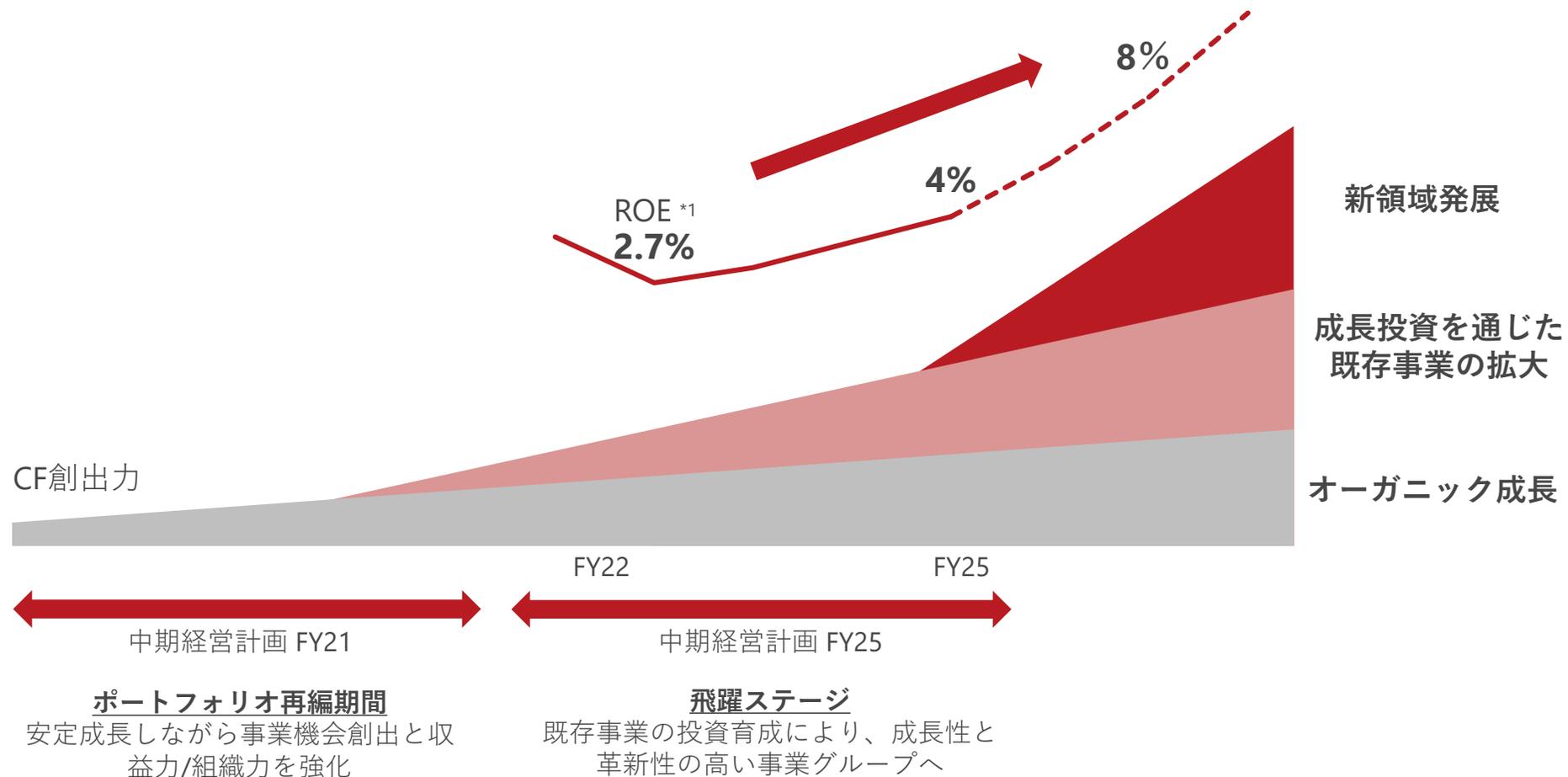


ROE分析



*1 FY22の非継続事業に係わる損益を除いた当期利益をもとに算出

余剰の現金性資産を成長投資に振り向け、既存事業の拡大や新領域の発展により資本効率を引き上げることで、ROEを改善する



*1 FY22の非継続事業に係わる損益を除いた当期利益をもとに算出

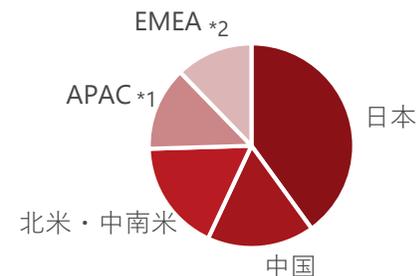
- 米ドル及びユーロ取引が多いAlphaTheta及びJLabで影響あり
- 円安はグループ全体では営業利益プラスに

概要

FY22 地域別売上収益構成比

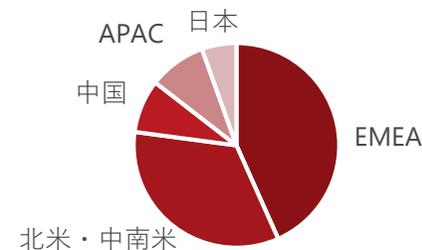
テイボー

- グローバルで販売及び仕入ともに円貨取引が基本のため**対米ドル、対ユーロともに影響は僅少**



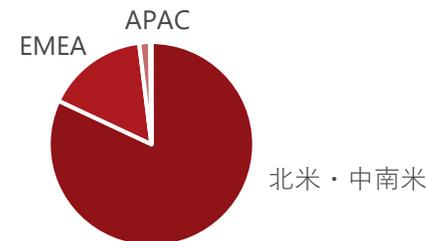
AlphaTheta

- 販売は各地域通貨を基本とし、仕入は米ドル
- EMEAの売上収益が大きいいため、**対ユーロで円安は利益プラス**
- 北米を中心とする米ドルでの売上収益が仕入をやや下回るため、**対米ドルで円安は利益マイナス**



JLab

- 販売は各地域通貨を基本とし、仕入は米ドル
- 米国の売上収益が大きいいため、**対米ドルで円安は利益プラス**
- 米国以外は売上収益がまだ小さいため影響は軽微

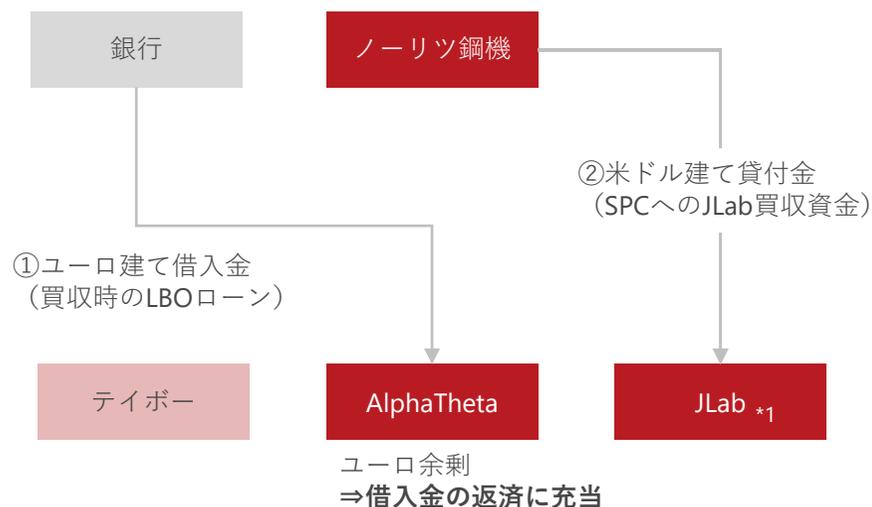


*1 APACは、アジア、オーストラリア（日本、中国を除く）

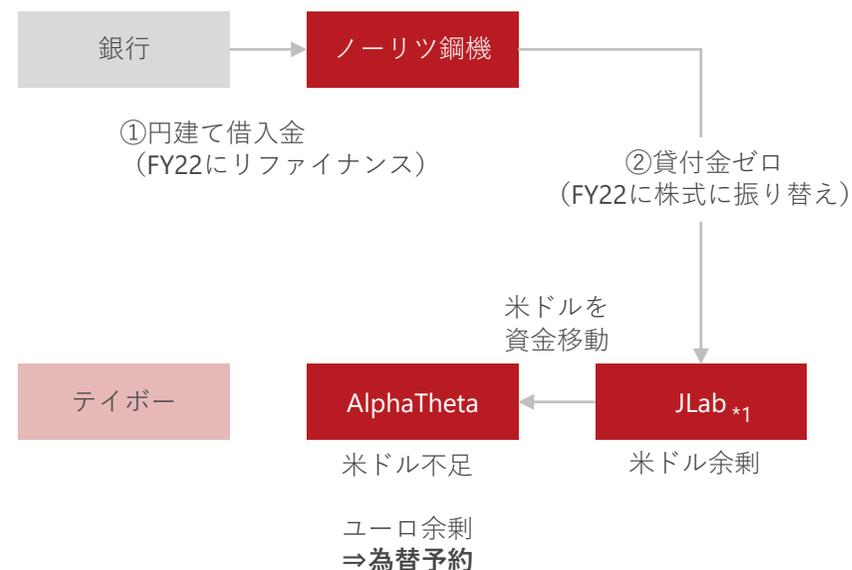
*2 EMEAは、ヨーロッパ、中東、アフリカ

リファイナンスや株式の振替により金融債権・債務からの為替差損益の発生を抑え、グループ間での資金移動や為替予約等を活用して、為替影響をヘッジする

FY22



FY23



- ①ユーロ建て借入金②米ドル建て貸付金及びについて四半期決算毎に為替評価を行うため、為替差損益が発生
- AlphaThetaでの余剰ユーロはユーロ建ての借入金の返済に充てることで為替リスクをナチュラルヘッジ

- ①ユーロ建て借入金 はノーリツ鋼機での円建ての借入金にリファイナンス、②米ドル建て貸付金は、株式に振り替えたため、今後、為替差損益は発生しない
- JLabでの余剰米ドルはグループ間での資金移動等で活用、AlphaThetaでの余剰ユーロは為替予約を活用しヘッジ

*1 買収のために設立したSPCを含む

為替の通期連結業績への影響は以下のとおり

※2023年2月14日更新

為替レート（平均）の1円円安による影響額

通貨	FY23予想 為替前提	売上収益	事業EBITDA/営業利益
米ドル	130.0円	+3.2億円	+0.0億円
ユーロ	132.0円	+1.3億円	+1.1億円

FY23は統合報告書の発行をはじめ、引き続き適切に情報開示を進め、持続可能な社会の実現と当社グループの持続的な成長を目指す

FY21

FY22

FY23の取り組み（予定）

- サステナビリティ経営の推進を通じて様々な社会課題に対応すべく、当社のミッションやビジョン、ステークホルダーの皆様の視点を踏まえて、4つのマテリアリティ（重要課題）を設定

- 「マテリアリティ対応計画」の推進
- サステナビリティ推進会議の開催（2022年8月）

- 「マテリアリティ対応計画」の推進
 - FY22における取り組み実績の開示
 - FY23における取り組み目標の開示
- サステナビリティ推進会議の開催（2023年2月/8月）
- サステナビリティ推進委員会の開催（2023年3月）
- 統合報告書の発行 / 2023年夏（予定）

- 「マテリアリティ対応計画」を公開
- 推進体制を構築

- TCFD提言への賛同表明
- 各種方針の開示

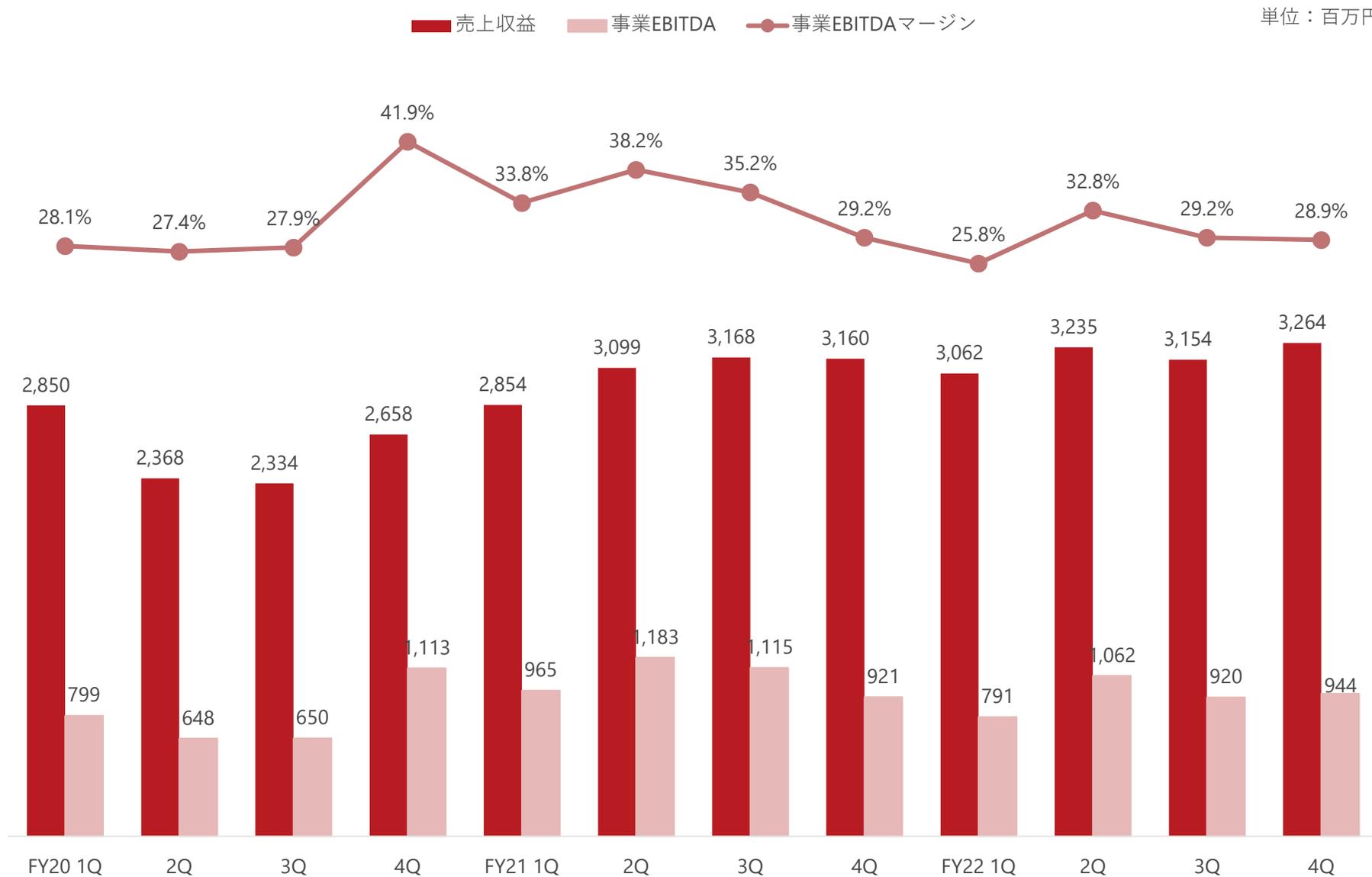


Appendix

単位：百万円		FY22上半期	FY23上半期予想	増減額	増減率
売上収益		31,536	35,800	+4,263	+ 13.5%
事業EBITDA		5,049	4,800	△249	-4.9%
事業EBITDAマージン		16.0%	13.4%	-2.6%	-
営業利益		3,267	2,400	△868	-26.6%
当期利益		101,121	1,200	△99,921	-98.8%
為替レート (平均)	米ドル (円)	122.9	130.0	+7.1	-
	ユーロ (円)	134.3	132.0	△2.3	-
為替レート (期末)	米ドル (円)	136.7	130.0	△6.7	-
	ユーロ (円)	142.7	132.0	△10.7	-

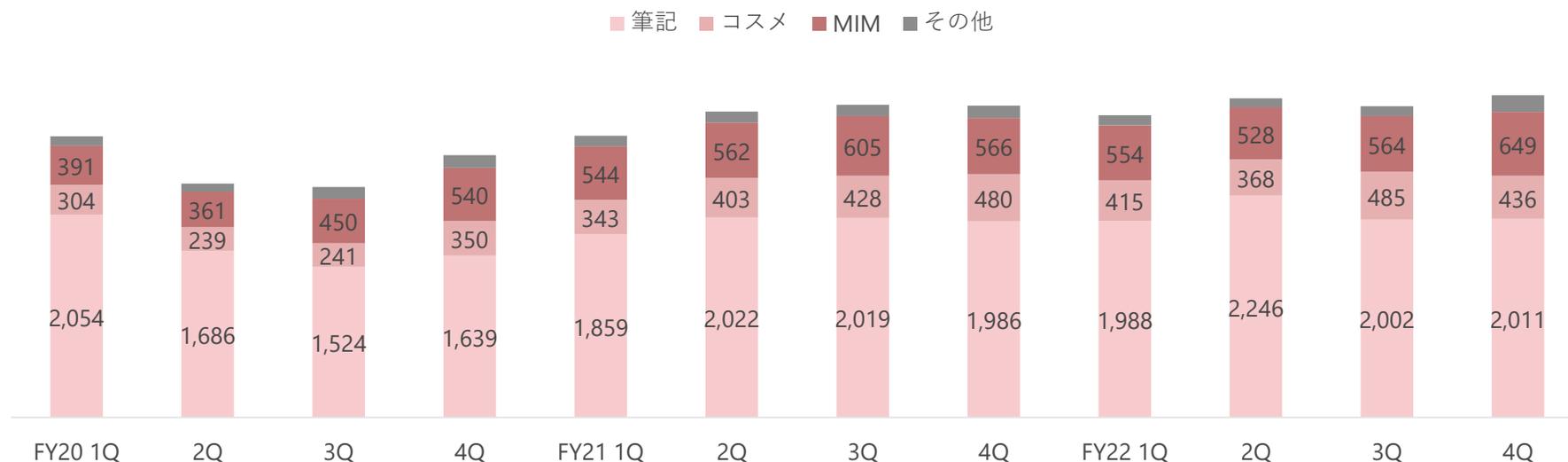
*JMDC株式の一部株式譲渡に伴い、FY22において医療情報に関する事業を非継続事業に分類しております。

単位：百万円		FY22上半期	FY23上半期予想	増減額	増減率
ものづくり (部品・材料)	売上収益	6,298	6,300	+2	+0.0%
	事業EBITDA	1,853	1,700	△153	-8.3%
ものづくり (音響機器関連)	売上収益	24,673	28,900	+4,227	+17.1%
	事業EBITDA	3,578	3,600	+22	+0.6%
AlphaTheta	売上収益	16,820	20,100	+3,279	+19.5%
	事業EBITDA	3,897	3,900	+3	+0.1%
JLab	売上収益	7,852	8,800	+948	+12.1%
	事業EBITDA	△318	△300	+19	-
その他・全社費用	売上収益	565	600	+35	+6.1%
	事業EBITDA	△383	△500	△117	-
連結合計	売上収益	31,536	35,800	+4,263	+13.5%
	事業EBITDA	5,049	4,800	△249	-4.9%



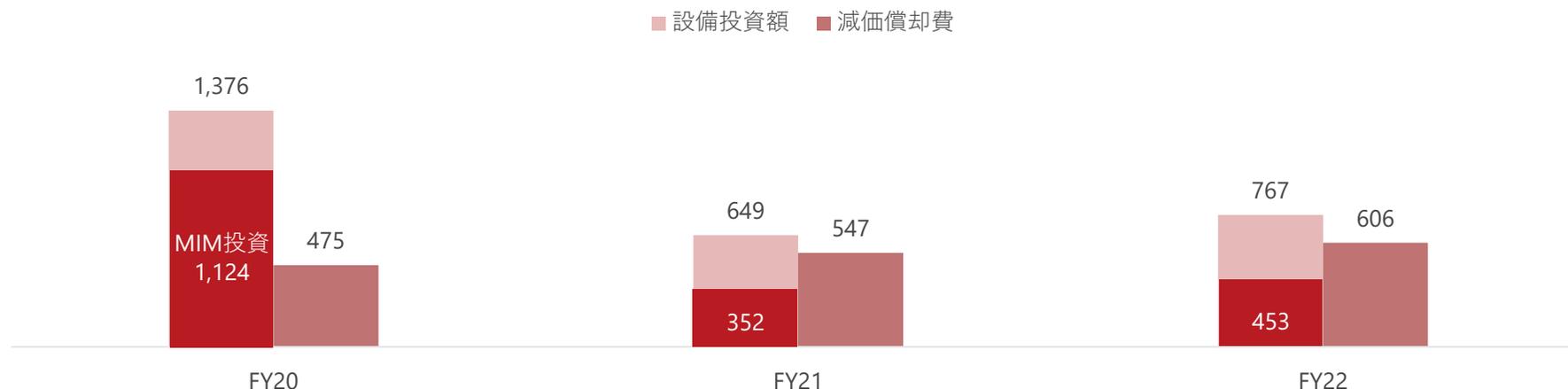
カテゴリ別売上収益推移

単位：百万円

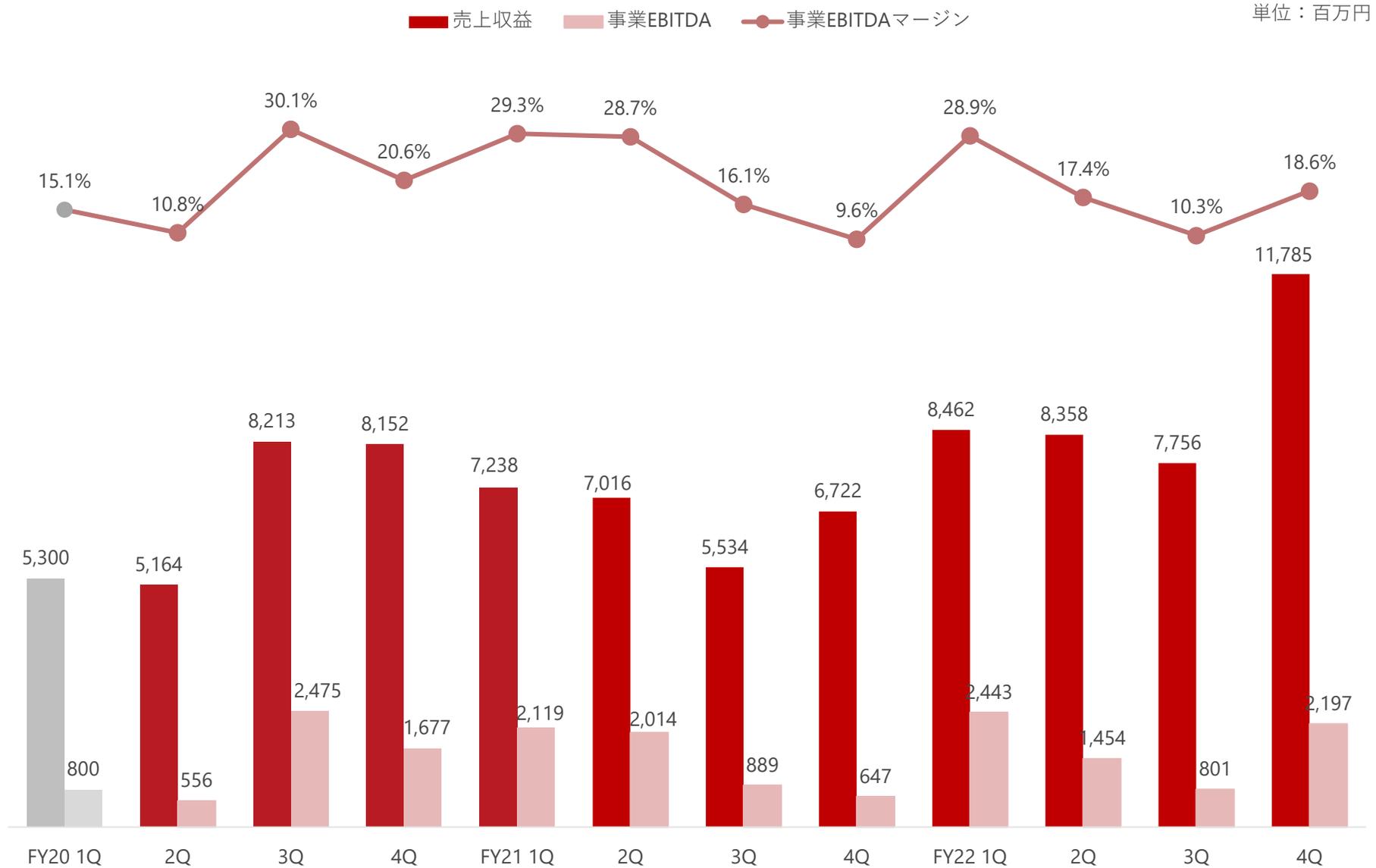


設備投資・減価償却費 *1

単位：百万円



*1 使用権資産に係る償却費及びPPAの償却費を除く



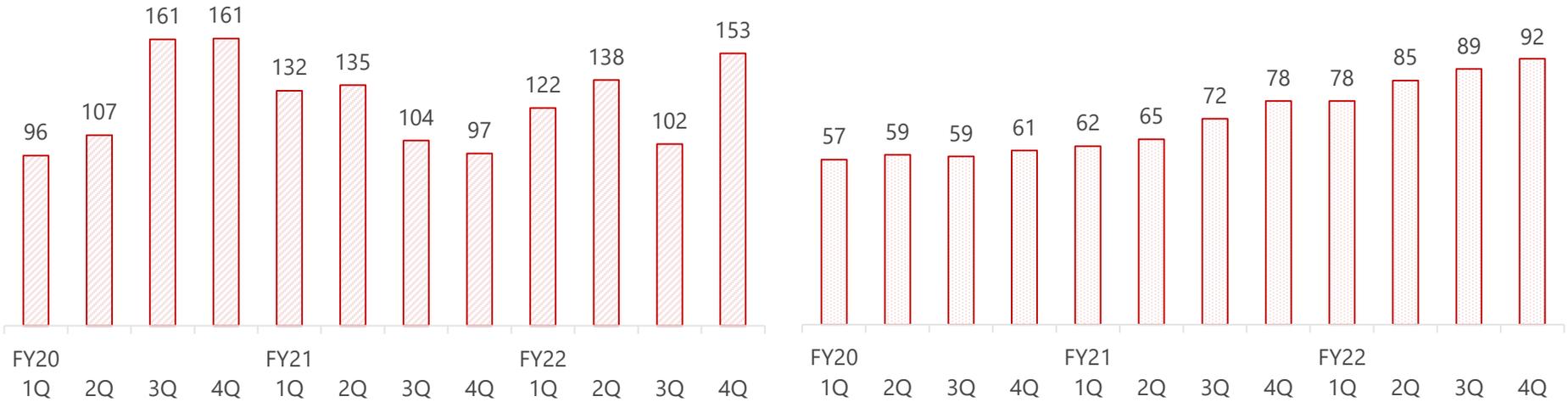
*グレーの期間は、グループ外のため参考値

DJ機器出荷台数

単位：千台

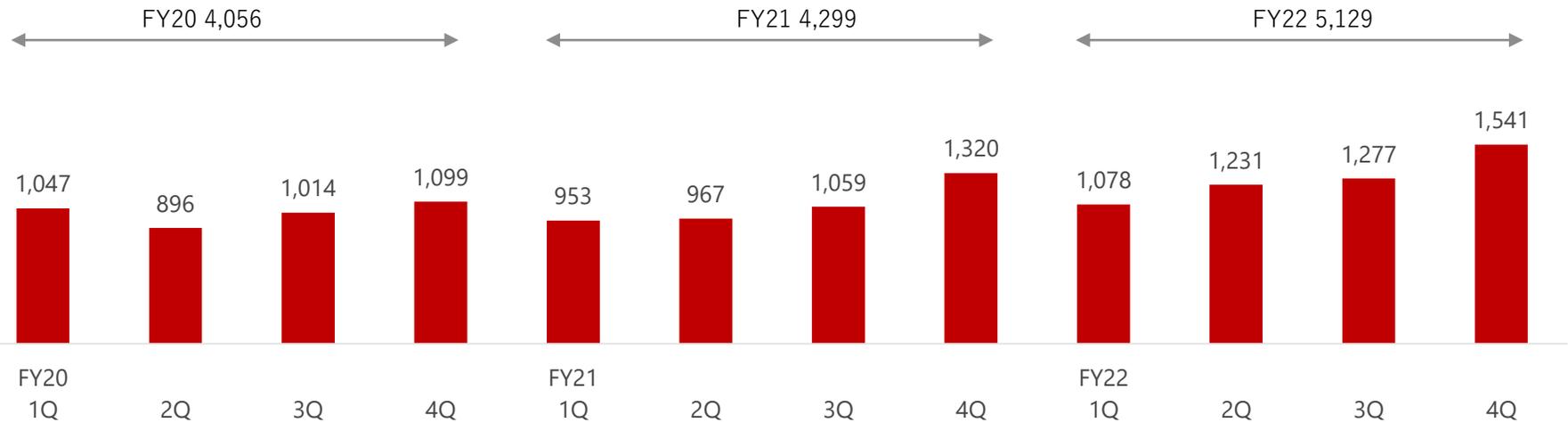
DJ向けアプリケーションMAU

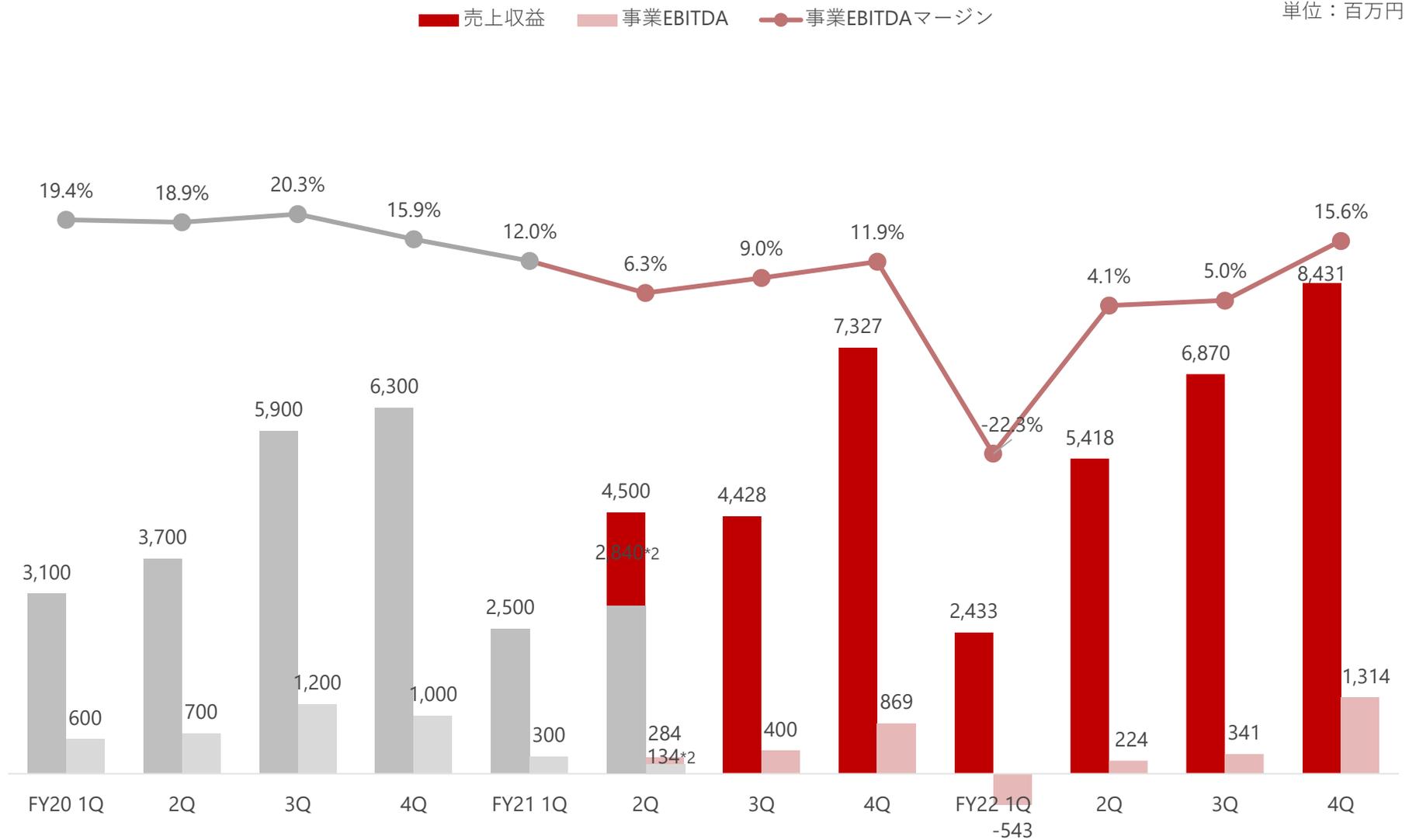
単位：万人



研究開発費

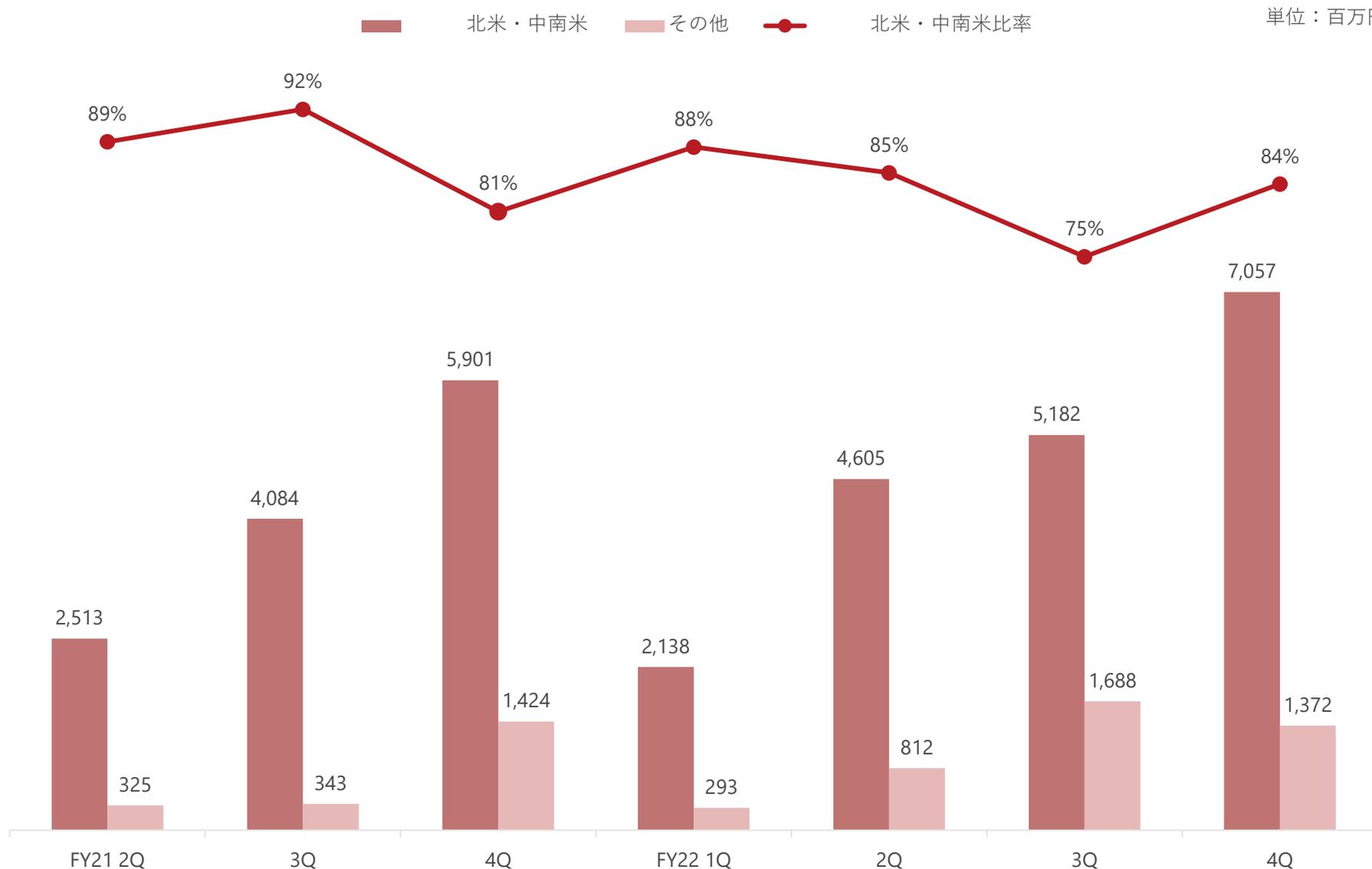
単位：百万円





*1 グレーの期間は、グループ外のため参考値。米国会計基準。1米ドル106円で換算

*2 2021年5月にグループ入りした以降の金額



*2021年5月にグループ入りした以降の金額

社名 ノーリツ鋼機株式会社（東証プライム市場：7744）

代表者 代表取締役CEO 岩切 隆吉

創業 1951(昭和26)年6月

設立 1956(昭和31)年6月

資本金 7,025,302,000円

本社 東京都港区麻布十番1-10-10 ジュールA 5階

取締役	岩切 隆吉	取締役 (監査等委員)	太田 晶久
	横張 亮輔		伊庭野 基明
	大塚 あかり		高田 剛

部品・材料

先端及び極小部材の製造事業

テイボー株式会社

会社名 テイボー株式会社
代表者 代表取締役会長 高原建司
資本金 50百万円
主要株主 ノーリツ鋼機株式会社
事業内容 筆記分野ペン先部品（フェルト、合成繊維、プラスチック）、非筆記分野、先端部材、MIM製造部品、コスメ用ペン先部材（合繊芯、プラスチック芯、ポリブチレンテレフタレート樹脂（PBT）ブラシなど）等の製造・販売

■グループ会社

泰宝制筆材料(常熟)有限公司（テイボー100%子会社）
 ・マーケティングペン先部品の中国（江蘇州）における製造・販売拠点

株式会社 soliton corporation（テイボー100%子会社）
 ・コスメ用ペン先部材の製造・販売

音響機器関連

音響、音楽制作機器の商品開発事業

AlphaTheta株式会社

会社名 AlphaTheta株式会社
 （旧Pioneer DJ株式会社）
代表者 代表取締役社長 片岡芳徳
資本金 1億円（2021年12月31日現在）
主要株主 ノーリツ鋼機株式会社
事業内容 DJ/CLUB機器、業務用音響機器、音楽制作機器の商品開発・設計・及び販売、ならびにそれらのサービスに関する事業

■販売子会社

AlphaTheta EMEA Limited
AlphaTheta Music Americas, Inc.
AlphaTheta (Shanghai) CO., Ltd.

音響機器関連

パーソナルオーディオデバイス製品事業

PEAG, LLC dba JLab

会社名 PEAG, LLC dba JLab
代表者 Winthrop Cramer, CEO
資本金 26M USD（2020年12月31日現在）
主要株主 ノーリツ鋼機株式会社
事業内容 パーソナルオーディオデバイス及びテクノロジー製品の設計及び販売

NORITSU

本資料に記載されているいかなる情報も、当社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。
また、当社は当資料の内容に関し、いかなる保証をするものでもありません。

本資料に記載されている当社の現在の計画、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、現時点において見積もられた見通しであり、
これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
実際の業績は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、
いかなる確約や保証を行うものではありません。